# わっかない市議会だより

平成12年5月1日
第91号

遥かなる旅路の前に
静かに佇む白鳥の群れ

撮影地：大　沼

発行　稚内市議会
編集　編集委員会
電話　23-6161番（代表）
内線 281

# 代表・一般質問から

各会派を代表して6人の代表質問及び1人の一般質問が行われました。主な質問と答弁を紹介します。

## 政友会 前田修悦議員

### 情報公開制度の取り組みについて

**質問** 今日、市民の知る権利を保障することはごく当たり前の事となり、そのために「公開原則の確立」「利用しやすい制度の確立」が求められている。本市も全国各地の情報公開制度を実施している先進地に学び早期に制度確立すべきであり、平成12年10月の情報公開制度及び個人情報保護制度の実施に向けた取り組みについて、市長の見解を伺う。

**答弁** 情報公開制度及び個人情報保護制度の実施については、これまで職員による庁内検討会や市民参加による懇話会を設置し検討・協議を進めてきており、3月中にも「提言書」が提出される予定となっている。今後は、庁内的には職員研修等を通じて本制度の職員への周知徹底を図り、文書庫の改修・整備等を行っていく。また、市民の皆様には市広報紙を活用し、制度の周知・理解を図っていく。いずれにしても、市民懇話会から提出される提言書を十分に尊重し、市の保有する情報は市民との共有財産という認識に立ち、開かれた透明性のある市政の実現と市民参加による監視機能の充実を図っていく。

### 行政改革について

**質問** これからの行政改革としては、市民の立場に立った質の高い行政サービスの提供やわかりやすい政策決定プロセスの公開など明快で持続性のある行政運営が必要である。これらを実現させるため、先進自治体において取得しているISO（国際標準化機構）9001の本市での取得について、市長の見解を伺う。

**答弁** ISOとは「品質管理及び品質保障に関する国際規格」について制定したもので、企業が提供する製品・サービスの品質を保障するため、最低限管理すべきことを基準書として整備することにより処理手順の標準化と業務効率化、コスト削減を図ることを狙いとしている。自治体においては、ISOの認証を取得することにより、行政サービスの質の向上・均一性の確保、行政手続きの透明性の確保、業務の効率化によるコスト削減、情報管理体制の確立等が図られることから、「質の高い行政サービスを継続的に提供すること」を実現しようとするものであり、職員の業務改善に対する意識改革や民間と同様なコスト意識等が育成されることから、広範囲に及ぶ効果が期待される。これらを踏まえ、今後、導入に向けて検討を進めていく。

**その他の質問事項**

- 地方分権制度における「統合補助金」による「まちづくり」の在り方

## 市政クラブ 竹村海一議員

### 産業クラスターの推進について

**質問** 本市地場産品の販路拡大や新製品開発など新たな産業の創設・活性化を図るため、今年2月に関係者60余名が集い、わっかない産業クラスター研究会が発足した。今後、この研究会が本市の経済活性化に大きく貢献していくことが期待されるが、今後どのような支援・指導・体制強化を進めていくのか、市長の見解を伺う。

**答弁** 現在の経済状況からみて中小企業が単独で新製品を開発するにはコスト的に大変なことであり、産業クラスターによる産業・学問・官庁が連携したチームプレーに大いに期待している。幸い本市には酪農・水産・観光に代表される自然豊かな資源が豊富にあることから、これらを生かした物づくりの可能性はどこの都市にも負けないと考えており、当分の間事務局を商工観光課に置き、会の運営や情報収集などを積極的に支援し、4月から商工労働課として体制を整え、全面的にバックアップしていきたい。

### 北海道・サハリン定期航路について

**質問** 稚内・コルサコフ間の日ロ定期航路は、今年も5月から民間フェリーによる運航が決定しており、関係者の運航に対する努力と意欲に心より敬意を表するものである。また、この航路については採算面からみても厳しいと市長も認識の上での支援策の協議と考えるが、この航路を永続的な安定航路とするために国や道の積極的な支援体制を得ることが必要であり、今後、市としてどう取り組んでいくのか、市長の見解を伺う。

**答弁** 平成7年に戦後半世紀ぶりに復活した本航路も、ツアー料金の高さ等による利用客の低迷など、大変厳しい状況にあるが、本航路を永続的な安定航路として維持していくことは、一自治体の対応すべき問題ではなく、国・道が北海道全体の国際化の推進策として積極的に支えていくべきと考えており、今後も粘り強く要望活動を国・道に対し展開していく。

**その他の質問事項**

- 行政改革と財政の健全化
- 港湾及び空港の機能整備

望まれるサハリンとの国際交流の拡大

## 公明党 鈴木茂行議員

### バリアフリーのまちづくりについて

**質問** 急速に進む高齢化社会への対応策として、誰もが安心して通行・移動できるバリアフリーのまちづくりが求められてくるが、❶道路のバリアフリー化について。❷総合福祉センター4階の身障者トイレ設置について。❸議場傍聴席のバリアフリー化について。こ

れらについて、市長の見解を伺う。

公共施設への設置が望まれる身障者用トイレ

**答　弁**　❶一昨年、各関係機関に協力を依頼し交通安全総点検を実施しており、中央地区のブロック段差は改修を行っている。今後は建設省の新施行基準に基づき安全な道づくりを進めていく。❷総合福祉センター4階への身障者トイレの設置は構造上無理と判断しており、不便とは思うが1階の身障者用トイレを利用してほしい。ただ、和式を洋式化することは検討していく。❸昨年から関係部署が改修に向け検討を加えており、今暫く時間を貸していただきたい。

### ゴミ問題について

**質　問**　過日、日本を含む5ヶ国で実施された21世紀に最も不安を感じることの調査結果として第1位に環境破壊が上げられている。環境破壊といえばゴミ問題が上位にランクされ、本市にとっても大きな問題と考えるが、❶今後新築される市営住宅への生ゴミ処理機の設置及び一般家庭への同処理機を対象にした助成制度の創設について。❷学校給食の残飯処理の現状と生ゴミ処理機設置を含めた今後の対策について。これらについて、市長の見解を伺う。

**答　弁**　❶新築される市営住宅への生ゴミ処理機導入は、自治会の管理体制が確立された段階で検討していく。一般家庭への生ゴミ処理機購入助成は、諸条件が整った段階で取り組んでいく。❷学校給食の残さは養豚業者に引き取ってもらっている。処理機を導入して学校で堆肥化し、花壇等で活用することは子供たちにゴミ問題が身近な問題として意識させることにも繋がると考えており、今後有効な活用方法を模索していきたい。

**その他の質問事項**
- 市政執行方針より
- 富士見地区温泉宿泊施設問題
- 水夢館について

## 市民クラブ　中井　淳之助　議員

### 観光振興について（道の駅の設置）

**質　問**　道の駅については、観光振興計画にも設置を検討すべきと提言されており、観光情報の集積地として、また、宗谷広域圏の近隣市町村の情報発信施設として、さらにはコミュニケーションのための中核施設として国道40号線の基点である本市に建設すべきである。本格的実現に向けて検討を始める時期と考えるが、市長の見解を伺う。

**答　弁**　道の駅については、かねてより進めてきた「稚内国際交易・文化交流拠点整備事業推進調査」報告書の中でJR・バス・フェリー及び外航船等の公共交通機関の基点であることや国道40号線の最終地点であることから建設の検討がされている。今後は、調査報告書に基づき中心市街地活性化法の適応へ向けた計画づくりのなかで、複合交通ターミナルや文化交流拠点の形成、観光支援施設等の配置と合わせて検討を進めていく。

### 東京直行便に対する冬季助成策について

**質　問**　東京直行便の冬季助成策は平成9年に冬期間の搭乗率確保のために発足したが、❶現行の助成策に対する認識及び新たな方策について。❷今後の支援策を検討してきたワーキンググループの出した結論「拡大なき継続実施」に対する見解は。❸東京直行便維持のメリットをどう考えているか。これらについて、市長の見解を伺う。

**答　弁**　❶3年間という期限付きで助成を行ってきたが、通年化維持の効果としては十分評価できると考えている。また、今後、関係者と十分協議しながら、新年度からはカニツアー助成に替わる新方策を考えたい。❷約半年をかけて議論を重ねてきたが、カニツアーの反響・経済効果が非常に大きく庁内の議論のみによる代替策の検討には無理があったと認識している。ただ、議論の成果は次の施策に反映したい。❸通年化の実現は首都圏と2時間弱で結ばれることになり、本市経済の活性化に大いに貢献したと認識している。

新たな支援策が望まれる東京直行便

**その他の質問事項**
- 安定した観光産業の基盤づくり
- サハリン村について
- 地方分権のスタートにあたって

## 民主クラブ　生田目　幸　男　議員

### 林業係の配置について

**質　問**　森林法の一部改正により、市町村に権限が委譲され委託事務量が増大されたことや、本市の市有林・民有林・造林可能地の広大さを考慮した長期的・計画的森林行政を推進するため、担当係の配置が必要と考えるが、市長の見解を伺う。

**答　弁**　現在、林業行政に関する業務全般については、農政課基盤整備係において業務を遂行しているが、森林法の一部改正により、森林施業にかかる市町村の役割は大きくなり、業務量が増大するため、林業の重要性を踏まえ、本年の組織機構見直しの中で農林事業係として、効率的な業務運営を図っていく。

また、市民ニーズに応えるために、幅広い視野から長期的な施策の方向づけを考えていく。

### 沼川・曲渕地区学校統合について

**質　問**　教育執行方針で、地域の熱い期待に応え特色ある教育環境を実現するため全力を注ぐと決意されたが、新学習指導要領の実施さらに教育課程の基準見直しの趣旨実現に向け、いち早く機能できる高い目標をめざした統合校の実現が求められているが、市長の見解を伺う。

**答　弁**　沼川・曲渕地区の統合校は、休校中の上声問小学校を含め、小学校7校、中学校5校を統合するもので、統合後は1学年1

学級の規模で、児童生徒の触れ合いは大変好ましい状態になると考える。児童生徒数の増による切磋琢磨する力の養成、さらに「おおらかな　かつ　たくましく」育つ環境は十分に整ってきており、小規模校としての特徴を生かし、子どもたちにとってより良い教育環境を作るため、関係期間と協議しながら具体的に決定していく。

統合によって教育環境の充実に期待

**その他の質問事項**

- 能力主義による人事政策
- 宗谷畜産開発公社の糞尿処理施設建設計画
- 企業誘致と企業立地促進条例
- 月刊誌掲載記事問題
- 富士見地区温泉宿泊施設問題
- 教育問題

## 日本共産党 斉藤信義議員

### 老人世帯の除雪について

**質　問**　幹線道路などの除雪は除雪車の後にショベルカーが交差点の除雪をしているが、一般住宅前はその雪が残されたままになっている。老人世帯では早朝の除雪が困難なため近隣の人達が除雪を手伝っているのが現状で、思いやりマーク等の標識を立て、市独自で困難な場合は、開発、土現に働きかけ、きめ細やかな除雪対策を実施すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

**答　弁**　老人世帯への標識については、プライバシー等の問題が懸念されるが、きめ細やかな除雪は指摘のとおりであり、その実現に向け情報提供等、関係機関と協議を進めていく。

### 乳幼児医療費について

**質　問**　日本の将来に暗雲を投げかけている少子化問題は若い世代での子育ての環境づくりが必要であり、乳幼児の医療費無料化及び年齢引き上げ要求が続けられてきた。道は今年1月より年齢を1才引き上げ3才未満までの乳幼児の医療費を無料とし、市町村への補助率を5年間で60%から50%に切り下げ、さらに来年度には所得制限を導入する等の報道がされた。本市としても就学児までを無料化し、それが無理ならば1才引き上げ4才未満とし、所得制限しないとする内容で検討すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

**答　弁**　道は平成13年度に所得制限の導入を検討しているが、本市としては所得制限により医療給付対象外の人々を救うことを第一と考えており、所得制限に係る北海道の改正内容に注目しながら検討していく。

望まれる乳幼児医療費無料化の拡大

**その他の質問事項**

- 酪農問題
- サハリン定期航路
- 介護保険
  - (1) 特養老人ホーム
  - (2) 身体障害者
  - (3) 保険料・利用料の減免
  - (4) 国保加入者
- 住民にやさしい地域づくり
  - (1) 公衆浴場
  - (2) 郊外の街灯
- 教職員の増員

## 真正クラブ 魚住光信議員

### 野生ヒグマ出没に対する駆除対策について

**質　問**　昨年は全国的に異常な熊の出没で野草採取者や釣人さらに通行人を脅かした年であり、本市においても例外ではなく駆除及び安全対策が問われている。このことから、熊による被害の未然防止に対する具体的対策について、市長の見解を伺う。

**答　弁**　本市の過去10年間のクマの出没件数を見ると、総件数で20件となっており、特に昨年は11件と半数以上の出没回数となっている。しかし、春クマの一斉除去については自然保護の観点から廃止となっており、その対策として注意啓発の看板設置、ハンターによる巡回等関係機関と連携をとりながら駆除体制を強化し、道の対策等を十分踏まえ情報収集しながら駆除と被害の未然防止に向け万全を期していく。

### 融雪施設設置貸付金制度について

**質　問**　除雪対策に要する経費は投資効果の見えない投資と推測されるが、市民の生活路線の確保の為には必要不可欠である。厳しい市の財政を益々圧迫している除雪対策について、融雪施設等に対する貸付制度及び除雪サービスとしての各種貸出制度を導入し、市民の創意工夫を喚起し、もっと行政に最大限協力してもらえる対策を検討すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

クマ被害の防止対策を万全に

**答　弁**　融雪施設等の貸付制度は、道内では旭川市をはじめ15市がすでに実施しており、本市も第3次総合計画に網羅している。また、宅地内・事業所・店舗等の雪の処理は、道路除雪の軽減にもつながるため財政事情を念頭に実施にむけ検討し、併せて移動式融雪機器の貸付・運搬用トラックの貸出制度についても実施にむけ検討する。

**その他の質問事項**

- 景観条例の制定
- ロシア座礁船の諸問題
- 農業・水産業の後継者問題

# 議案特別委員会

# 総括質問から

各会派の持ち時間の範囲で7人の委員から総括質問が行われました。質問の主なものを紹介します。

## 市民クラブ

**山田繁春委員**

●高齢者サービス事業計画の目標達成度合は。達成されない要因は。
●ホームヘルパーや保健婦の確保にどういう体制で臨んできたのか。
●施設サービス面では民間企業の進出のみで市独自の整備が行なわれてないのは何故か。
●高齢者福祉計画の実現に対する意欲が感じられないがその見解は。
●温泉を健康増進保養施設として充実させるため水夢館と保健福祉センターを結び体制を確立しては。
●介護保険料の試算は希望量に対し現実に提供できる量を基準にしてるので矛盾がある。この見解は。
●高齢者福祉計画が完全に達成されたら1号被保険者の保険料が相当高くなると思うがどうか。
●介護認定作業が現在までに終了してる分で在宅介護・施設サービス別の5段階の構成比率は。
●認定が推計より多いが結果をどう捉えているか。また、この違いが介護保険会計に跳ね返るのでは。
●低所得者対策として保険料の減免等の政治判断が必要ではないか。
●市立病院の減価償却費が全道的に見て高いが設備投資が過剰ではないのか。また、設備を有効に活用してるか調査は行なっているか。
●医療材料費が高いと指摘してきたが改善されていない。コンサルに任せるのではなく病院独自で積極的に取り組むべきでないか。
●医師一人当たりの患者数が少ないのは何か特別な事情があるのか。
●医師の平均勤務年数が2年と短いが医師の確保については行政も係わるべきでないか。
●特殊勤務手当ての廃止については再考を求めたいがどうか。
●行政改革については従前の計画を精算し市長の新たな方針を打ち出すべきでないか。

## 民主クラブ

**松本勝利委員**

●はまなす児童遊園建設の副申書提出の経過を説明してほしい。
●町内会の同意は得られたのか。また、町内会長名の同意書提出は市が要請したものか。
●市はこの件に関して地域の事情を調査したのか。
●副申書はパチンコ店への就職決定者等の様々な要因を見極めてから提出したのか。
●市立病院の医療費の未収金はどの程度か。
●未収金の回収にどう取り組んできたのか。また、成果がどのように出ていると捉えているか。
●未収金の回収対策を抜本的に見直すべきでないか。
●救急外来待合室の改善を検討してるのか。早期に対応すべきでないか。
●病棟の看護婦は夜勤体制に十分対応できるように充足されてるか。
●稚内高校看護専攻科から市立病院への就職者が少ないのは何か原因があるのか。看護婦の確保体制を確立すべきでないか。
●看護婦の事務的作業を減らすためにOA化（オーダリングシステム）の導入は。
●医師・事務職員が一体となって経営改善に努力すべきでないか。
●新学習指導要領にある総合的な学習時間の活用方法として交通安全教育を徹底しモラルの向上を図るべきと思うがどうか。
●人事考課制度のねらいは何か。また、市長の考える職員意識改革とどう連動していくのか。
●消防機構の中に市の防災担当と連携をとり防災に取り組む部署を設置すべきでないか。
●不法投棄の報道があったが市は知ってたのか。今後どう対応していくのか。

## 日本共産党

**斉藤信義委員**

●市役所で横文字が多く使われているが市民に分かり易い言葉を使うべきと思うがどうか。
●地方分権法の施行により中央強化されたと思うがその見解は。
●機関委任事務が4割残っているほか財政的な面は何ら前進してないと考えるがその見解は。
●国は介護保険導入により社会福祉事業から手をひく。その結果地方にしわ寄せがくるのでは。
●港湾計画は財政事情や需要等を見極め慎重に考えるべきと思うがどうか。
●沼川地区の学校統合による廃校を地域の要望を聞きコミュニティー施設等に活用する考えは。
●35人学級に対しての理念は今も変わってないか。
●学校関係者は教員が不足と言ってるがこれに対する見解は。
●市独自の中・長期の計画を持って学校教育を進めるべきと思うがどうか。
●2005年までに全ての小学校にコンピューターを導入する計画だが教職員だけでなく専門家を入れて対応していくべきでないか。
●国旗・国歌法について卒業式前に教職員を含め十分論議すべきでは。また、全国校長会での委員長の発言に対する見解は。
●情報公開条例制定に向けた取り組みと進捗状況は。これは市民・行政・議会の三者にメリットのある条例と認識してるか。
●請求者は市民だけでなく誰でも求める事のできる条例にするのか。
●審査会に不服申立て以外に運営・提言等の権限を持たせては。
●交通が不便なため下宿せざるを得ない高校生に対し助成していく考えはないか。

## 政友会

**岡本雄輔委員**

●市役所で横文字が多いとの声がある。分かりやすい役所用語に対する市長の見解は。
●「検討する」が多いが出来るものについては何時までにと明解にし、対応すべきでないか。
●稚内の自家用車・営業車の登録台数は10年前と比較してどのような状況か。
●機構改革で交通安全推進室を係

にする事は安全都市宣言から見ても後退と思うが見解は。
●シートベルト・チャイルドシート着用の啓発対策は。
●市立病院の平成11年度の業務委託の内容は。検査部門の外部委託は何時からか。
●稚内に検査部門の委託を受ける会社はあるのか。
●市内にある会社を入れて入札することによって委託料も安くなると思うがどうか。
●会社によって検査数値が違うと言う事があるのか。基準値があるのではないか。
●稚内市における障害者の雇用状況とこれまでの雇用対策は。また、今後計画的に採用する考えはあるのか。
●ノーマライゼーションの本来の目的は。声問地区でのモデル事業を本事業とする考えは。
●市政モニター委嘱の基準や質問・要望を改善するシステムは。また、担当課等への周知方法は。
●屋内ゲートボール場の建設や全道的な大会が出来るカーリング場を整備する考えは。
●過去3年間と比較すると機構が肥大化してると思うが見解は。
●12年度予算では財政再建の取組姿勢が見えないが歳出抑制にどのような手法を考えているか。
●情報公開と行政評価を連動させた取組の考え方は。

## 公明党

**館農恒一委員**

●第3次稚内市総合計画における実施計画の政策評価取組の見解と決意を伺う。
●業務マニュアル化及び総合行政ネットワークシステム構築の進捗状況と今後の計画は。
●地域の産学官による情報化推進体制整備の取組状況は。また連携には行政が音頭を取るべきと思うがどうか。
●情報化に対するスペシャリストの養成や大学のテクノロジーを引き出し利用出来る体制が必要ではないか。
●図書館建設に向けた検討の成果は。また、公民館的機能を持たせるようであるがその機能や計画を明らかにしてほしい。
●介護保険サービス業者のサービス内容を行政として市民に周知すべきと思うがどうか。
●北防ドームのコンクリート劣化防止対策を早急に対応すべきでないか。
●ゴミ収集日が祝祭日と重なった場合の対応も必要ではないか。
●末広地域に交番設置の取組状況は。
●融雪槽等の設置に対する助成を、いつから実施する考えなのか。
●観光資源として風力発電施設の位置づけをどう考えているか。また、建設位置についてはどのように考えているか。
●天然ガスを活用したハウス栽培をどう考えているか。また、新しい農業の顔としての考えは。
●税・公共料金の口座引き落としの締め切り時間が違うのでは。給食費も含めて改善する考えはないか。
●新ゲーム機は発売台数が少なく高価なのでこども達のトラブルも懸念されるが対策は。

## 市政クラブ

**三宮正人委員**

●新年度から設置する窓口サービス課の役割と実施するサービスをどのように考えているか。
●職員の名札の見直しが必要と思うが改善する考えはあるか。
●フロアマネージャーを配置する考えはないか。
●カジュアルデイ（ふだん着の日）導入に対する見解は。
●ISOを稚内市で導入する場合には品質管理と環境管理のどちらが良いと考えているか。
●市議会の行政視察に行政職員の参加を増やす考えはないか。
●予算編成時の優先順位のチェック体制はどうなっているか。
●市民のためのソフト事業が少ない。予算を見直していかにソフト事業に向けるかが大切と思うがどうか。
●参事制の導入はどのような効果をねらっているのか。
●ワーキンググループから東京直行便支援事業の新たな提案がなかったのは市長の意図が伝わらなかったのではないか。
●サハリン村の今後のあり方を行政としてどう考えているか。
●まちづくりには顔が必要であり稚内にはマリンタウン計画等多くの計画があるのでこれらを盛り込んでまちづくりを進める考えはないか。
●群馬県太田市の管理職は自らまちのゴミ拾いをしているが稚内市にも導入すべきでは。
●サハリンとの交流を考えている民間団体へ助成はできないか。
●まちづくりを進める上で稚内に縁があり各分野で活躍している地方在住の方々に応援団になって貰う体制づくりが必要では。
●温泉童夢で入浴中に体調をくずされる方に備え救急救命の研修が必要でないか。

## 市政クラブ

**河野至緒委員**

●海洋深層水を含め近海の海洋調査を科学技術庁へ要請はしているか。
●昨年9月以降状況が変わってないが産業の発展に可能性があることは積極的に取り組むべきでないか。
●水産公社では新商品研究開発費を計上してないが公社本来の役割を果していけるのか。
●剰余金を商品開発に向ける等の対策を講じて水産加工業の育成等公社の役割・使命を果していくべきでないか。
●水産振興にもっと力を入れるべきでないか。また、坂の下から抜海方面の未利用海域の有効利用を図るべきでないか。
●沖合・沿岸を問わず長期的な水産振興計画を作成すべきと思うが考えはあるか。
●ロシア語のポスター・看板を設置する事によって子供達への教育効果を期待出来ないか。
●看板等の設置場所は潮見5丁目交差点付近が良いと思うが。
●サハリンとの文化交流を拡大するためにもサハリンの文化展やコンサートを開催する考えは。
●風力発電が他市ではまちおこしに使われているが稚内ではどのように活用していくのか。
●稚内市がリーダーシップをとって関係市町村と連携を図り風力発電を推進する考えはないか。
●公営住宅の買い取り制度はどの程度メリットがあるのか。
●市立病院がここ数年で何故大きな赤字を抱えたのか。その要因をどう捉えているか。
●地域センター病院として市民に信頼されるよう努力していくべきでないか。

# 各特別委員会から

**3月定例会に提案された各会計補正予算・新年度各会計予算・条例案・単行議案は、各特別委員会においてそれぞれ審査を行いました。主な質疑の内容を紹介します。**

●中小企業に対する特別融資・機械購入資金貸付制度のPR方法は。
●こうほね沼環境保全工事後は水道水を使用しなくても良いのか。また、海岸は浸食されていないか。
●街路灯の設置は町内会からの要望に対応するだけでなく市独自の設置計画を持つべきではないか。
●給食量が年々減少してるのは分かるが単年度で賄材料費1,700万円もの減額は理解できない。当初の計画はどうであったのか。
●職員共済費をこの時期に2,300万円も追加する要因は何か。
●市立病院は患者が減少してるのに医業費用が増えるのは何故か。
●宗谷本線特別急行列車運行実現期成会への負担金は目的が達成されたので精算すべきでは。
●地域集会所のトイレ改修はあと何カ所必要か。今年度の予定は。
●参事制導入による市民サービスの効果をどう考えているか。
●人事給与システムソフト開発業務の委託内容は。また、この開発は市独自で出来ないのか。
●地方バス路線維持費補助金の算出根拠は。また、乗車人数が少ないのであればバスを小型にしては。
●コンピューターの借り上げは競争入札が必要でないのか。
●名誉市民の年金額を見直しすべきと思うがどうか。
●住所（本籍）の字名の解消を検討しているか。
●サハリン担当部門が経済部へ移行したが交渉事務が主と思うので企画調整部が良いのではないか。
●乳幼児医療費助成を道が1歳引き上げたことにより市民は市も連動して上げると思ってるがどうか。
●児童館の指導員は港ふれあいセンターのみならず他も必要では。
●木馬館への補助を今後も継続していけるのか。補助額も増えているので基本的な方針を作り国・道に支援を要請していくべきでは。
●個人で託老所を開設した場合に行政からの支援は出来ないか。
●紙類の分別を5町内会がモデル地区として実施されるが町内会とはどんな議論をしているのか。
●ペット霊園は早急に必要と思うが再度見解を伺う。
●火葬場は3組入れるが空いている時は利用出来るよう配慮が必要でないか。
●ペット散歩時の糞の処理について啓蒙・啓発が必要でないか。
●各種ガン検診が定員に達し受診出来ない場合次回の通知や優先等に配慮しているか。
●カラスの駆除対策にどう取り組んでいるのか。
●畜産経営コンサルタント業務・家畜ふん尿処理システム調査業務は委託しないと出来ないものか。また、農家・農協の意見を聞き情報を収集してから実施すべきでは。
●凍結路面へ焼砂の散布を今後拡大していく考えはあるか。
●成人式の記念品を見直しする考えはないか。
●文化センターのトイレに手拭きを設置すべきでないか。
●科学館・水族館には1枚の券で両方入館出来るようにすべきでは。
●図書館建設基本構想等策定業務を委託するが行政の基本的な考えがまとまっているのか。
●青少年会館が老朽化している。改修等の計画はあるか。
●文化センターの改修工事は緊急に必要か。地元業者が出来るのか。
●国保からの出産一時金を直接病院へ支払う事はできないか。
●市立病院の窓口業務を民間に委託する考えはないか。
●病院の再建に院長・副院長はどんな考えを持っているのか。

# 採択された請願及び要望意見書

**季節労働者の雇用と生活安定を求める請願及び要望意見書**

北海道は積雪寒冷という気象条件から、冬期間の産業活動に著しい制約を受けることにより、季節的に循環雇用を繰り返す季節労働者が、建設業とその関連産業を中心に、今なお、約18万8千人に及び、北海道の雇用労働者の9.0％を占めている。そのほとんどが冬期間に離職を余儀なくされる専業型季節労働者で、冬期間においても継続して就労することを強く望んでいる。冬期間における季節労働者は離職後、特例一時金50日分と冬期雇用援護制度を活用し生活を維持しているが、冬期雇用援護制度は平成12年度をもって期限切れを迎えるため、生活の安定に資するよう、制度の存続や雇用機会の拡大を求める。

**アレルギー性疾患対策の早期確立を求める要望意見書**

近年、アトピー性皮膚炎・気管支喘息・アレルギー性結膜炎及び花粉症等アレルギー性疾患に悩む患者は増加の一途をたどり、いまや「国民病」となりつつある。平成7年度の厚生省の調査によると、乳児の29％、幼児の39％、小児の35％、成人においては21％に上っている。

これらの疾患に悩む患者は、効果的な治療法や的確な情報のないままに、深刻な苦痛等さまざまな症状に悩まされ、日常生活や社会生活に支障をきたしている。

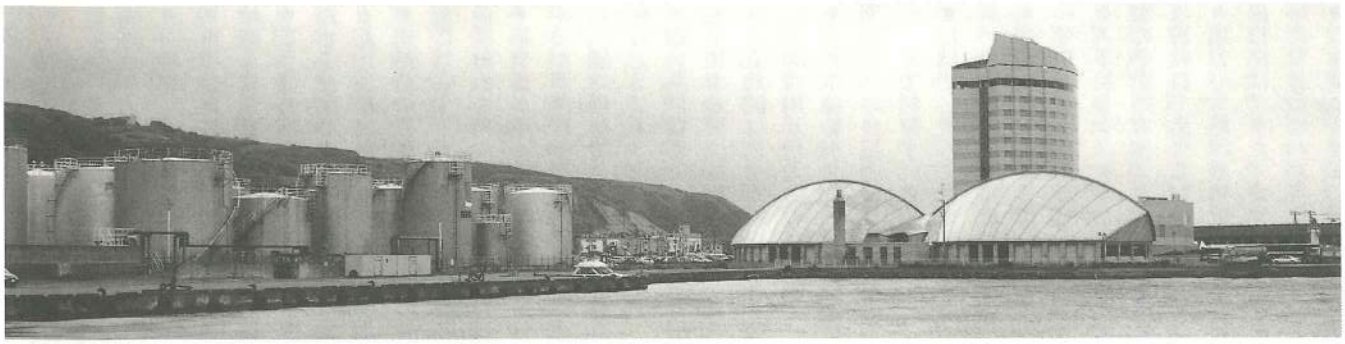
こうした深刻な状況を打開するために、アレルギー性疾患発生の仕組みの解明とより効果的な治療確立の推進を求める。

**新たな酪農・畜産基本政策並びに平成12年度酪農畜産物政策・価格実現に関する請願及び安定した酪農・畜産経営確立のための要望意見書**

北海道の酪農・畜産は、後継者不足・労働過重などの問題や、WTO体制による国際化の進展によって厳しい競争を強いられている。

酪農については、新たな制度のもとで生乳需給と価格の安定が確保され、生産者が安心して生産に取り組める仕組みが必要となっている。また、酪農については、基本計画や酪農肉用牛生産近代化基本方針に基づく生産努力目標などの達成や経営安定対策、環境対策等の基本政策を明確にし、関連対策の充実強化が必要となっている。

したがって政府においては、安定した酪農・畜産経営の確立を図るため、新たな酪農・乳業対策大綱等を具体化するよう求める。



## 本会議と各委員会の出欠状況

| 区分／議員名 | 出席すべき日数（本会議・各委員会） | 出席日数 | 欠席日数 | 区分／議員名 | 出席すべき日数（本会議・各委員会） | 出席日数 | 欠席日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石塚　公次 | 15 | 10 | 5（私） | 館農　恒一 | 22 | 22 | |
| 岡本　雄輔 | 16 | 16 | | 中井淳之助 | 22 | 22 | |
| 小林侃四郎 | 15 | 15 | | 藤谷　良幸 | 16 | 16 | |
| 田森　和文 | 22 | 20 | 2（私） | 山田　繁春 | 15 | 15 | |
| 前田　修悦 | 23 | 20 | 3（私） | 生田目幸男 | 22 | 22 | |
| 河合　慎一 | 14 | 13 | 1（公） | 長谷川喜市 | 16 | 16 | |
| 河野　至緒 | 15 | 15 | | 松本　勝利 | 15 | 15 | |
| 小林美和子 | 16 | 13 | 3（私） | 斉藤　信義 | 16 | 13 | 3（私） |
| 菅原　清治 | 15 | 15 | | 三谷　典子 | 22 | 6 | 16（病） |
| 竹村　海一 | 15 | 15 | | 魚住　光信 | 22 | 21 | 1（私） |
| 三宮　正人 | 22 | 22 | | 東方　豊松 | 22 | 22 | |
| 越後谷亮一 | 21 | 18 | 3（公） | | | | |
| 鈴木　茂行 | 16 | 16 | | | | | |

注：(1)出席すべき日数は、２月１日から４月30日までの状況。
(2)欠席日数欄中(公)は公用、(私)は私用、(病)は病気の意味。

## 議会日誌

**2月**

2・全国市議会議長会基地協議会総会（浜松市）
4・**第1回臨時会（本会議）**・議案特別委員会
7・議会運営委員会行政視察（太田市・横須賀市・吹田市）
16・**建設産業常任委員会**
17・北海道市議会議長会事務局長会議（札幌市）
18・**民生文教常任委員会**
21・**総務常任委員会**・川口市議会議員来局
22・サハリン調査特別委員会・介護保険制度準備特別委員会・**議会運営委員会**・代表者会議
28・**第2回定例会（本会議）**・議案特別委員会・**議会運営委員会**・議員会

**3月**

2・**本会議（代表質問）**
3・**本会議（代表・一般質問）**・**議会運営委員会**
8・議案特別委員会
9・議案特別委員会・議会だより編集委員会
10・議案特別委員会・**議会運営委員会**
13・議案特別委員会・**議会運営委員会**
14・議案特別委員会
15・**本会議**
24・**第3回臨時会**・**議会運営委員会**・代表者会議

**4月**

10・代表者会議
11・北海道市議会議長会道北支部議長会（留萌市）
17・豊橋市議会議員来局
25・**議会運営委員会**・正副委員長会議・議会だより編集委員会
27・北海道市議会議長会定期総会（赤平市）

## 6月定例会の日程

6月14日　**本会議**
・一般行政報告
・予算・条例・単行議案の上程
15日～18日　休会
19日～20日　**本会議**
・一般質問
21日　**議案特別委員会**
・予算・条例・単行議案の審査
22日　**本会議**

本会議は5階議場で、議案特別委員会は4階委員会室で開きます。

## 議会を傍聴しませんか

**手続きは簡単です**

●お問い合せは
議会事務局
（☎23－6161・内線281）まで

## 編集後記

年度末の3月議会は会期17日間の日程で代表・一般質問、新年度予算に対する総括質問等活発な論議が行なわれました。

今後は市民の為の施策や予算の実行がなされるものと確信を致しております。

20世紀最後の年も残すところ8ヶ月となり、何かと激動の年を感じさせる昨今でありますが、皆様と共に健康で晴れやかに21世紀を迎えてまいりたいと思います。

市民の皆様のご意見をお待ちいたしております。

編集委員一同